

ポイント1 間断灌水で根の活力を維持！ + 出穂期が近づいたら必ず湛水を確認！
ポイント2 カメムシ + いもち病の防除を徹底しよう!!

生育概況(普及課生育診断ほ7月19日現在)

平坦部 (川西町)		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)
はえぬき	本年	70.6	692	11.4	44.0
	前年	59.2	616	11.2	41.1
	平年	63.8	601	11.4	41.1
	平年比・差	111	115	0.0	2.9

平坦部 (飯豊町)		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)
はえぬき	本年	72.5	455	12.1	42.4
	前年	61.1	654	10.7	44.4
	平年	67.8	500	11.5	41.9
	平年比・差	107	91	0.6	0.5

平坦部 (川西町)		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)
つや姫	本年	69.1	560	11.3	40.7
	前年	59.2	529	10.5	42.1
	平年	65.2	518	11.1	39.3
	平年比・差	106	108	0.2	1.4

平坦部 (飯豊町)		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)
つや姫	本年	70.6	450	12.0	41.7
	前年	56.9	480	10.2	39.8
	平年	65.8	495	10.9	37.9
	平年比・差	107	91	1.1	3.8

【生育概況】

7月19日現在の生育は、草丈「やや長い」、茎数「平年並み～やや多い」、葉色「やや濃い」状況で、葉数の展開や幼穂の発育状況から見て、出穂期は平年より3日程度早まる見込みです。

【今後の気象予測】

東北地方には7月19日に「低温に関する異常天候早期警戒情報」が発表されています。
 特に東北太平洋側は7月24日頃から約1週間、気温がかなり低くなると見込まれ、日本海側も低温が予想されるため、農作物の管理に十分注意をして下さい。

当面の対策

(1) 適切な水管理 ～間断灌水で根の活力維持～

出穂前までは間断灌水で根の活力を維持し、出穂・開花期間は必ず湛水しましょう。
 また強い低温が予想される場合は深水管理で稲を守りましょう。

(2) カメムシ + いもち病の防除を徹底しよう

斑点米カメムシ類の防除

斑点米カメムシ類の発生は平年よりかなり多く、7月4日に注意報が発表されました。薬剤による防除は出穂状況を確認し、穂揃期および穂揃期7～10日後の2回を基本に行いましょう。

いもち病の防除

断続的な降雨と長期的な日照不足により、今後いもち病の発生が心配されます。穂いもちの防除は穂ばらみ後期と穂揃期の2回防除を基本とします。



【 いもち病とカメムシ防除で品質確保！ 】

大雨・浸冠水などに関する技術対策

7月に入り断続的な降雨と7月18日、22日両日の大雨により水田や畑地で浸水・冠水が繰り返し発生しています。農作物の被害を最小限にとどめるため技術対応を迅速に行いましょう。

1. 共通事項

- (1) 水路や河川等において、増水や氾濫の危険があるので、降雨がおさまり、水路の減水を確認したら、圃場、施設の状態を把握し、速やかに必要な対策を実施する。
- (2) 圃場に土砂等が流入した場合、流入した異物を速やかに除去する。
- (3) 停滞水が見られない圃場においても、断続的な降雨により農作物にダメージを与えている可能性があるの農作物の生育状況をよく確認し、回復を図るための技術対応を速やかに実施する。

2. 水稲

- (1) 排水後は土壤に酸素を供給するために間断灌水を行い、稲体の健全化を図りましょう。
- (2) 稲体の損傷や体質の低下により、いもち病などの病害が発生しやすくなっているほか、アワヨトウやウンカ類の虫害を受けやすいので、圃場の観察をこまめに行い、早期発見と適切な防除に努めましょう。
- (3) 穂肥はほぼ終了していますが、生育が回復してこない場合は、安易に追肥を行わず、水管理などで稲体の回復を図りながら対応しましょう。

3. 大豆

- (1) 土壤の固結や過湿状態を改善するため、作業可能な土壤水分になったら、速やかに中耕培土を行い、通気性の確保に努めましょう。
- (2) 病害虫の早期発見と適切な防除に努めましょう。
- (3) 根粒活性が低下している可能性があるため、葉の黄化が進み生育が回復してこない場合には、開花期前後に窒素成分で3～5kg/10a程度の窒素追肥(尿素)を行いましょう。(培土期に緩効性肥料等により追肥を行った圃場を除く)